

# 成長戦略策く

## 化学市場の動向



三菱化学とJXが連携を模索する

### 主力品を海外展開へ

国内需要の増加が見込まれない中、化学各社は強みを持つ主力化学品の海外展開を活化させていく。旭化成はアクリル繊維やABS樹脂に使うアクリロニトリル(Acrylonitrile)の年産能力を15年度に現状比8割増の14.1万トンに増強する。タイや韓国サウジアラビアで生産設備を増強し、世界最大手を目指す。低燃費タイヤの180万トンに増やし

### 鹿島や千葉で再編

石鹼製品の主要工場なり、年間生産量が19年連続の2011年1~9月ぶりに600万トンを割り下った。国内需要の低迷が前年同期比10.2%減の454万トンと迷、円高による誘導品の輸入増に加え、中国を中心とした新興国で石化設備の増強が続いているからだ。結果、国内工チレン生産設備の稼働率も8月まで11ヶ月連続で好不調の

(HS FCC)装置も実証中。火力発電所などの燃料でしか用途がなかった重質油を原料に、競争力を持つたプロピレン、ブタジエンを生産できるようになれば、シリガス由来のエタンを原料とする北米のエチレン製造設備に対抗する競争力を持たせられる。これに対応も始まっている。三菱化学は、旭化成は、ナフサからブタジエン抽出後に残ったブテンから再度ブタジエンを抽出する技術の実証も進めている。実用化できればエチレン生産設備の稼働率に左右されないブタジエン

の生産ができるそうだ。

三菱化学とJXが連携を模索する

を目的とする。低燃費タイヤの180万トンに増やし

る高燃費タイヤの180万トンに増やし

る高燃費タイヤの180万トンに増やし